

第1回イトウも棲めるまちづくり推進協議会 議事要旨

〔日 時〕：令和7年8月12日（火） 13:00～15:30

〔場 所〕：南富良野町保健福祉センターみなくる1階 大ホール

〔出席者〕：委員 16名

1. 基調講演

○講演「イトウの現在と未来 ～イトウを指標・象徴とした健全な河川環境の保全と活用、そして地域振興へ～」

文化庁 文化財第二課 主任文化財調査官 江戸 謙頭 様

2. (1) 協議会の設立について

○事務局より、資料1-1の説明

○事務局より、資料1-2の説明

- ・事務局提案のとおり、設立趣旨・規約が承認され、令和7年8月12日付で規約が施行された。
- ・イトウも棲めるまちづくり推進協議会が設立され、会長として中村委員が選出された。

2. (2) 協議会の体制および今後の進め方について

○事務局より、資料2-1の説明。

○事務局より、資料2-2の説明。

- ・事務局提案のとおり、本協議会の下に生息環境ワーキンググループ、地域振興専門部会が設置された。

会長 今後、20～30年の整備目標を定める石狩川水系の河川整備計画が見直される際に、生息繁殖の場に関する定量的な環境目標が設定されると思うので、バックキャストで本協議会の短期目標や取組を設定するのが重要である。

協議会の体制について、生息環境と地域振興を一つの問題として検討するため、ワーキンググループと地域振興専門部会を統合することや、協議会に合併させるといったことも将来的には考えられる。

委員 空知川、雨竜川の河川整備計画の中に、中長期的な目標として生息環境をどう位置づけていくか、発展的に取り組んでいきたい。地域振興や活性化の実現には多様な主体、特に民間企業との協働が重要となる。また生息環境ワーキンググループでは縦断方向の連続性の確保だけでなく、氾濫原の保全など横断方向の連続性も重要な論点となる。

委員 イトウの保全だけでなく、森林のネイチャーガイド等のアクティビティによる地域振興にも寄与するので、森林の取組も視点に入れた流域全体の保全についても方策が出せるよう、進めていきたい。

委員 観光の立場から、イトウの棲む環境づくりへの理解を広げるために、エコツーリズムという手法が考えられる。参加者、受け入れ側双方が責任を持った観光の展開により、イトウに新たな認識を持つ人が増え、生態系を意識し、それがまちづくりにつながってくるのが理想的であり、そういう視点で色々な議論をさせていただきたい。

- 委員 石狩川支流ではダムによって上流のイトウが安定個体群を維持している点が興味深い。ダム下流に関しては産卵床が多数確認されている雨竜第1ダム、雨竜第2ダム下流の生息環境の判断からとりかかりたい。石狩川の取組から全道の絶滅の危機に瀕している個体群の保全にも広げていきたい。
- 委員 イトウというシンボルを用いて朱鞠内地域の定住者を増やして地域振興に力をいれたい。漁協にも河川整備に力を入れる人をより増やしたい。
- 委員 河川管理者としてイトウをシンボルとし保全する整備計画を位置づけられるよう調整していく。当面は地域と一体となってかわまちづくりを整備していく。
- 委員 河川整備計画の見直し時に急に環境の要素だけをとり入れることは難しいので、どういった観点であれば可能かを考え、計画に結びつけたい。
- 委員 雨竜川ダム再生事業で実施しているイトウを含む環境調査を引き続き実施し、結果を共有させていただきながら、保全・再生、地域振興につなげられるよう、一緒に考えていきたい。
- 委員 雨竜川では雨竜川ダム再生事業と連携し河道掘削を進めている。掘削に当たっては現況河道や水際樹木を保全し、樹林化しないよう湿地環境を創出するといった取組を行っており、この面的な復元を指標にできるのではないかと考えている。
- 委員 遡上に支障がないよう地盤工事の際は段差を緩やかにするなどイトウに配慮した森林整備を進めており、国有林としてできる協力を行ってまいりたい。
- 委員 雨竜第2ダムの周囲の国有林は天然林が多く、現在は森林施業とイトウの生息の調整の観点では軋轢が少ないが、森林管理者として生態系を保全する責任を負う意味において、引き続き協議会に関わっていきたい。
- 委員 イトウを保全することは同じシンボル種でありアンブレラ種であるシマフクロウを保全することになる。この協議会がイトウもシマフクロウも棲めるまちづくり森づくりにつながることを期待している。また、今後の気候変動等により河川の攪乱が量的だけでなく質的にも変化する中、どうイトウの保全につなげるかという視点も検討いただきたい。
- 委員 南富良野町としてイトウとの共存・共栄を目指しており、条例の整備により共存は実現している。一方、過去にはイトウ養殖に取り組んだが断念し、共栄は道半ばである。生息環境を守ることとそれをどう活かしていくかということ、これが両方向で進んでいけば地元としては非常にありがたい。幌加内町とも連携していきたい。
- 委員 水害に強い河川というのが我々住民の大きな1つの願いであるが、一方で生態系もしっかり守っていくのも我々の務めである。流域治水や防災対策と生態系保全の両面で行っていることをもっと地元の住民の方に分かりやすくPRし、幌加内のイトウの素晴らしさをもっと地元住民に勧めて広めていきたい。